

2022年1月3日（月） 大阪城公園梅林



20.

つき

— この一月中に新春の計 —

2022年が始まりました。元日は少し雲が多かったですが、昨日今日とよく晴れて、清々しい新年の始まりです。

1月の中旬には日の出時間も反転し、少しずつ早くなり始めます。旧暦の元日は2月1日、立春は2月4日です。

正月一月の末には、太陽の光も春めいてきて、なんとなくやる気がじわじわと浮き上がってきます。

そんな気持ちにうまく乗じて、自身の新しい春を始められるよう、この一月中におこう一年を展望しましょう。

2022年を公私ともに良い一年にしていきましょう。今年がみなさんにとって実りの多い年でありますように！

2022年1月7日(金) 晴&曇

今日は「七草」、新年もはや?まだ7日。こうして書き始めた今朝、急にパソコン画面が消えた。あれやこれや調べ、帯電の問題。なんとか元にもどるも、おそろおそろ使用中。

ー トラブルの先にアイデアーつー

パソコンが止まる前に書き始めていたことは、あまりに時間が経ってしまい、その気にならなくなってしまいました。おもしろいものです、気持ちと思考のからみは。

パソコンの替えどきなのは、昨年から思っていました、何せ買って5年をすぎましたから。急にとまった原因や対処法をスマホでいろいろ調べながら、“もっと早く替えておくべきだった…”。

午前中はこのことで時間をとり、とにかくいったん充電ゼロにして様子をみようと、気分転換もかね、外へ出ました。ついでに書店で「トラブルシューティング」に関する本をみてみよう。

でもありませんね。ほんの一冊あった雑誌もさほど詳しくはない。修理やトラブル解消はビジネスですから、そうなのでしょう。情報の落差にビジネスが芽があるとも言えますから、仕方ありません。

書店からの帰りの道、はっと思い立ったことがあります。自分ではなかなかいい、腑に落ちるアイデアです。それが何かはまた別の機会に

2022年1月11日(火) 雨

今朝は雨。先週土曜から昨日にかけて冬晴れが続いたので、雨もよし。今日は「鏡開き」、「えべっさん」も最終日。正月もはや中旬。

ー 目にみえない主題ー

先日から耳についている俳句、『冬天よ 母を泣かせて 来る街か』。女性芸人の一人がテレビで詠んだ一句、情景が目に浮かび、想いまでが立ち上がってきます。

今朝のessaisで話しましたが、こうして書いて話して、〈思考や表現の試し〉をする場合、〈目に見える〉主題はあまり向いていない、そう感じました個人的には。

「0.1%の超富裕層が増えて…」、その先を議論するにしても、読み方のパターン、シナリオは3~4つぐらいのもの。そして実際にどうなるかは時間がいずれ教えてくれる。

昨年末、大晦日の数日前、ふと思いついたことがあります。“そうだ、「あとがき」を録音しよう…”。1年前に大整理をして、究極のこした本たち。どれも「あとがき」がよかったのを憶えています。

さっそく始めて、今で9本目。どの著者も個性があります。「あとがき」の範疇を超えて、さらに考えさせられる。著者の心情、心境、世界…。自分で読んで、あらためてそれらに触れる。

著者の世界と自分の世界が時空間を超えて、かさなり出あう、そんな感覚が、気持ちをなんとなく豊かにしてくれます。『ほんとうに大切なことは目に見えないものなのですよ』と、耳元で囁かれました。

2022年1月17日(月) 晴れ

うっすらと雲はひろがるが、晴のおだやかなお天気。風がないので、身を縮めるほどの寒さでもない。阪神あわじ大震災から27年、あの日のことは今もわすれない。

－ 知識、経験、習慣 －

戦後の混乱期に身を起こし、起業して会社を大きく育てたオーナー経営者。高齢になり一線から退く前に経営のシステム化をし終え、悠々とこの世を後にされた方。

ただお孫さんのひと言が印象に残りました。「おじいさん、学をつけていたら、もっとすごい人になっていたと思います」。

学業は小学校で終えたけど、本当に頭のいい人で、それを商売だけに使ったのはもったいなかった、もっといろいろな知識があれば、さらに大物、人間として大人(たいじん)になっていたはず、というのです。

今年に入り、ちょっとしたきっかけがあって、知識と経験の関係について考えました。知識は経験によって知恵になるとざっくり捉えています。経験はその人ならではの学びの大事な入口です。

一つの経験を自分なりに吟味して、そして何かしら新しい認識にたどりつく。その吟味に、意味ある味付けをするのが多様な知識。さまざまな経験に対応できるような大小、多種多様なエッセンス。

そう考えると、まだ経験の少ない子供にも多様な知に触れさせことは学びの積み重ねが増し、経験の多い大人でも知識が少ないと、せっかくの学びをとりこぼしていく…？

いま日経土曜版に連載されている「石牟礼道子」の評伝、敬服したのは父親の人物像です。学歴は「小卒」、でもまるで在野の高僧のような精神性はどのようにして育まれたのか、興味深いものがあります。

「学をつける」は、「学歴が高い」ことではないのは、はっきりしています。まずは、本業以外の多様な知識にふれる、読書の習慣がやはり大事なんでしょうね。

2022年1月18日(火)早朝 西に沈む月



2022年1月20日(木)大寒 曇→晴

今日は大寒、寒さよりも陽ざしが冬の極み、厳しい寒さはまだ続くが、陽ざしは確実に春めいてくる。ここにきて「コロナ」感染者急増、それでも大きな制限はないはずで、個々人で対策を講じるのみ。

－ 厚意的暗躍 －

ずいぶん以前のリーズレターに同じタイトルの文章を書いたことがあります。自分の知らないところで、誰かが自分のために動いてくれている、そういうことがありますよ、と。

『子どもと大人の違いは、大人は人の痛みがわかる、人のために泣ける』と言った人がいます。〈人の痛み〉が自分の痛みように感じられる、想像できる、それが大人。

そういった意味では、少し大人になりました。自分で仕事をはじめて、考えさせられる場面に出合って、年をかさねた分、それも増えて、「出会いに恵まれた」と言う時の意味合いも、だんぜん深くなりました。

いつの頃からかは、こちらが〈暗躍〉する立場にもなり、これもひとつの『恩送り』です。いま孤軍奮闘、悪戦苦闘、試行錯誤している人に、そういう姿を必ず誰かがみていますよ、と言いたい。

誰かがみていても、いなくても、とにかく真剣に自他ともに向き合い進もうとする、それが、誰かの目にとまるのです。

いずれ試行錯誤から脱して、それなりの達成感を少し味わうようになったら、想像してみたいものです、ひょっとすると誰かが知らないところで動いてくれていたかもしれない。たぶん、動いてくれていたでしょう。

2022年1月24日(月) 曇→晴

昨日からの雨はやんだ。午後から晴れそうで、気温は10℃の予報、風がなければ寒さもやわらぐ。旧暦では今週が年の瀬、昨日もちょっと迎春準備、新春、立春を迎える自分なりの小さな儀式。

－ 物語が眠っている －

昨年末にふと思立ち、読書本のあとがきを音声で録り始め、昨日日曜は『治療文化論』を録音しました。著者は18日に紹介した『私の日本語雑記』の「中井久夫」。

この方、「あとがき」もまるでファンタジーのようで、そして、長文。全部読み終えるのに、結局8回にわけることになりました。おまけに途中で何度か中断する羽目に。

というのも、見慣れない漢字が時々でてくるのです。こんな漢字熟語、あった?と思うようなものばかりで、おかげで少し勉強になりました。でも読んで聴く場合は不向きですね。

『治療文化論』(岩波現代文庫)は2001年に出ていて、出てまもない頃買って読みました。当然「あとがき」も読んでいるはずですが、まったく記憶にも印象にも残っていません。

ほぼ20年ぶりにこの本の「あとがき」を読んだわけですが、ちょっと驚きました。当時はそのままスルーしていたことに、物語りが眠っていたのです、「河野与一」という人に。

さかんに名前の出てきた「河野与一」、せっかくだから検索してウィキペディアで哲学者で翻訳家であることを知ったのですが、著書一覧を開いて、目をうばわれました。

10代の終わりに塾の先生からもらった本のタイトルがそこにあったのです。フランスの作家が書いた一冊の翻訳者が「河野与一」だったのです。「中井久夫」が敬服するほどの翻訳者であったとは…。

今頃になって、はるか昔にももらった本の、さらなる重みを感じるなんて、なさけないことですが、今だから見直すことになったのでしょし…。それにしても、どこに物語が眠っているかわからないものです。